

きはだ中西部太平洋条約海域

評価対象種：キハダ(伊豆諸島海域)



令和6年4月

資源の水準と動向「中位・減少」

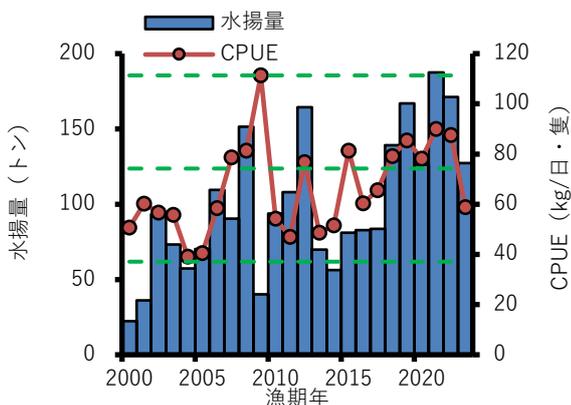


図1 水揚量とCPUEの推移



図2 ひき縄漁業におけるCPUEの年変動率

2000年以降の伊豆諸島海域におけるキハダの水揚量は、大きく変動しつつも2014年以降は概ね増加傾向にあり、最大値は2021年の188トンであった。(図1)。CPUE(ひき縄漁業1日1隻あたりの水揚量)は2014年以降増加傾向にあるが、2023年は58kg/日・隻で、前年比67%であった(図2)。

本資源評価票での資源量指標はCPUEとした。2023年における資源の水準は、CPUEが最大値となった2009年の111kg/日・隻の1/3以上2/3未満である58kg/日・隻のため「中位」とした(図1)。

資源の動向は、直近5年間のCPUEから算出した年変動率が-5.49%で、年間5%以上の減少が見られたため「減少」とした(図2)。

生態学的特性

- 分布・回遊：日本沿岸では北海道以南に分布し、伊豆諸島以南の太平洋側から南西諸島にかけて多く分布。沖ノ鳥島周辺海域でキハダ仔稚魚が採集される。¹⁾
- 年齢・成長：尾叉長は1歳で45cm、2歳で80cm、3歳で100cm程度²⁾、寿命は7~10歳と推定される。³⁾
- 成熟・産卵：産卵は周年、表面水温24℃以上の海域で行われると推定される。⁴⁾
- 被捕食関係：仔魚期の餌生物はカイアシ類、枝角類が主体で、稚魚の胃内容物には魚類が多く、次いで頭足類が多い。成魚は魚類を主に甲殻類、頭足類等幅広い生物を捕食する。⁵⁾

東京都におけるキハダ漁

- 漁業：主に八丈島、三宅島、小笠原諸島周辺海域で周年漁獲される。
- 漁法：ひき縄・はえ縄・定置網により漁獲される。
- 管理：三宅島及び八丈島では東京都資源管理方針に基づく資源管理協定を策定し、はえ縄漁業(三宅島)、ひき縄等の一本釣り漁業(八丈島)において、自主的資源管理(禁漁期間の設定)に取り組んでいる。

- 1) 山口邦久・田中優平・渡辺孝夫・古澤一思・宮向智興・平田敦洋, 2018. 小笠原諸島周辺海域における動物プランクトンと魚卵稚仔の分布 (資料), 東京都水産海洋研究報告, 6: 47-55.
- 2) Vincent, M.T., N. Ducharme-Barth, and P. Hamer, 2020b. Background analyses for the 2020 stock assessments of bigeye and yellowfin tuna. WCPFC-SC16-2020/SA-IP-06. 126 pp. <https://meetings.wcpfc.int/node/11702> (2021年12月閲覧).
- 3) Andrews, A.H., A. Pacicco, R. Allman, B.J. Falterman, E.T. Lang, and W. Golet. 2020. Age validation of yellowfin (*Thunnus albacares*) and bigeye (*T. obesus*) tuna of the northwestern Atlantic Ocean. Can. J. Fish. Aquat. Sci., Doi: 10.1139/cjfas-2019-0328.
- 4) Kikawa, S. 1966. The distribution of maturing bigeye and yellowfin and an evaluation of their spawning potential in different areas in the tuna longline grounds in the Pacific. Rep. Nankai Reg. Fish. Res. Lab., 23: 131-208.
- 5) 井嶋浩貴 長谷川貴章 佐藤圭介 岡本 慶 田中寛繁, 2024. 令和5年度 国際漁業資源の現況 14 キハダ 中西部太平洋, 水産資源研究所 水産資源研究センター.
https://kokushi.fra.go.jp/R05/R05_14_YFT-WCPO.pdf